

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 25 日現在

機関番号：35410

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25885113

研究課題名(和文) 論証に関する推論能力に着目した説明的文章読解カリキュラムのスパイラル構造化

研究課題名(英文) Spiral Structure of the Explanatory Text Reading Curriculum that Focus on Reasoning Capacity for Argumentation

研究代表者

青山 之典 (AOYAMA, YUKINORI)

比治山大学・現代文化学部・准教授

研究者番号：00707945

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、論証に関する推論能力に着目し、説明的文章読解指導のためのスパイラルカリキュラムの構築を目的とする。日常的な推論は偏向しているため、論証に関する推論においては論理構築だけでは十分でなく、意味内容形成、コンテキスト分析も必要である。

そこで、3つの下位能力を設定し、日常的な推論の偏向に対応する論理的認識力を概念規定した。3つの下位能力を往還的かつ相互補完的に機能させることが重要であることを明らかにし、3つのStrandによって構成されるスパイラル型の説明的文章読解カリキュラムを構築した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to construct the spiral curriculum for reading instruction of explanatory text, focus on reasoning ability of argumentation. Because the daily reasoning has a bias, in reasoning about argumentation, meaning contents and context analyzing as well as formal logic are needed.

Therefore I establish 3 lower-level abilities, and I provide a concept about the "Logical Cognition Ability", answer a bias of daily reasoning. I reveal a importance that each of 3 lower-level abilities function to complement, and I construct the explanatory text reading spiral curriculum, that is composed of 3 strands.

研究分野：国語科教育

キーワード：論理的認識力 説明的文章 論理構築能力 意味内容形成能力 コンテキスト分析能力 スパイラルカリキュラム Strand 小学校国語科

1. 研究開始当初の背景

新学習指導要領実施後、思考力・判断力・表現力等の充実に向け、論証に関する推論能力育成に関して様々な立場から研究が進められている。しかし、育てるべき能力の概念規定が十分になされておらず、能力育成のためのカリキュラムも系統性に問題を抱えた状態である。

2. 研究の目的

(1) 論理・論理的思考に関する先行研究および概念整理論考の成果を批判的に継承した上で、論理的認識力の設定の必要性を述べ、その概念規定を行う。

(2) 学習指導要領のもつカリキュラム構造の問題を明らかにするとともに、諸外国の読解能力育成のためのスパイラルカリキュラムの構造を検討し、構造的特徴を明らかにし、その可能性を検討する。その上で、論理的認識力育成のためのスパイラルカリキュラムを構成するための要点を明らかにして、学年目標および教材選定のあり方について検討する。

(3) 研究の目的(1)および(2)の成果をもとにして、論理的認識力を高めるための説明的文章の読みに関するスパイラルカリキュラム(小学校1学年~6学年)を構築することを目指す。具体的には、学年目標および指導目標に沿った教材を選定して、論理的認識力を高めるスパイラルカリキュラムを構築する。

3. 研究の方法

(1) 日常的推論に関する認知心理学の研究成果をもとに、日常の論理が偏向していることを明らかにするとともに、その克服に向けて開発された形式論理が克服できなかった課題について明らかにし、新たな能力(論理的認識力)を設定することの意義を述べる。

(2) 設定した論理的認識力が果たす機能を実現するために必要な下位能力を明らかにするとともに、その内実を実践的に明らかにし、下位能力相互の関係を明らかにする。

(3) 学習指導要領の構造がもつ課題を、異なる構造(スパイラル型)のカリキュラムとの比較によって明らかにし、課題解決のためのカリキュラム構造について検討する。

(4) 望ましいカリキュラム編成の枠組みを明らかにするために、論理的認識力から見た日本の教科書分析を行う。そして、スパイラルカリキュラム運用にあたって留意すべき点を明らかにするためにカナダ・トロント大学附属学校の授業と教師の分析を行う。その上で、論理的認識力育成のためのカリキュラム編成の枠組みを明らかにする。

(5) 論理的認識力育成のためのスパイラルカリキュラムを構築する。具体的には、論理的認識力育成の意義など、カリキュラムの原理を明示するとともに、目標群を構造的に示し、対応する教材を示す。

4. 研究成果

(1) 日常の論理の偏向に対応するために、論理的認識力の設定が必要であることを示した。具体的には次のように焦点をあて議論を進めた。

まず、形式論理は外延のみを対象とし、内包を問題としないため、日常的な推論を対象とすることに限界をもつ。そのため、既に意味内容の形成をも射程に入れた先行研究が散見される。しかし、それらは論理構築と意味内容形成とを構造的にとらえたものではなく、再検討を要する。また、論理構築と意味内容形成とは、筆者や読者のコンテキストによっても影響を受け、偏向する。

このような日常的な推論の偏向に対応するためには、論理構築能力、意味内容形成能力、コンテキスト分析能力のそれぞれを下位能力として構造化した新たな能力、論理的認識力が必要であると考えられる。

(2) 論理的認識力の概念規定を行った。3つの下位能力(論理構築能力、意味内容形成能力、コンテキスト分析能力)の構造および実相を明らかにするとともに、それらが往還的かつ相互補完的に機能することで認識の限界を克服することができることを実践的に明らかにした。その上で、能力の構造を図1のように示した。

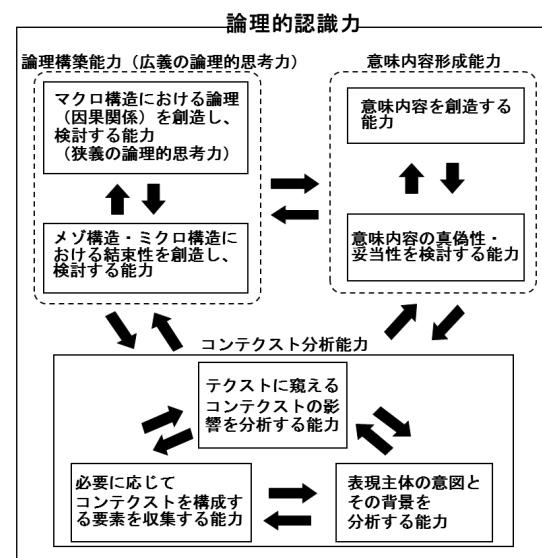


図1 論理的認識力の構造

(3) 学習指導要領における読解カリキュラムは異なる能力を積み上げる構造であるために、系統が不明確になっているが、そのことが小学校における説明的文章読解指導の難しさを生み出す要因になっていることを

論じた。その上で、アメリカ合衆国およびカナダ・オンタリオ州の読解指導スパイラルカリキュラムを分析し、基礎構造としての Strand の存在を指摘した。さらに論理的認識力の下位能力それぞれを Strand として位置づけることで系統が明確になり、指導の改善につながる可能性を指摘した。

(4) 3つの下位能力それぞれの系統について、目標設定のための枠組みを明らかにした。

具体的には、論理構築能力に関しては、先行研究の検討をとおして「論理の型」「基本的な結末性」という観点を設定し、それぞれの内実と系統を明らかにした。その上で、論理構築能力の系統を観点として教科書教材の分析を行い、意味内容形成能力の系統を明らかにした。さらに、コンテキストの影響を考えながら論理構築および意味内容形成をメタ的に捉え直すことを可能にするために、どのようにコンテキスト分析能力を育成していくかの系統も明らかにした。そして、スパイラルカリキュラムを実際に運用している教師との対話、授業分析を通してカリキュラムを授業づくりにどのように生かすべきなのかを明らかにした。

(5) 論理的認識力を高めるためのスパイラルカリキュラムを実際に構築した。カリキュラム編成の哲学を明示した上で、総括目標、Strand を貫く目標を示して、Strand それぞれを構成する学年目標を示した。また、平成23年度版小学校国語教科書教材の全てを検討し、カリキュラムを具体化するために適切な教材を選定した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

青山 之典、Common Core State Standards for English Language Arts における Reading Standards for Informational Text(K-12) - スパイラル構造をもった説明的文章読解カリキュラムの実際 - 、国語教育思想研究、査読無、第7号、2013、pp.1-13、
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00035270>

青山 之典、Strand 概念の導入による読解カリキュラム改善の可能性 - 要点・要旨把握指導に焦点をあてて - 、広島大学大学院教育学研究科紀要、査読無、第一

部第62号、2013、pp.101-109、
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00035337>

青山 之典、日常の論理の偏向をどう教育で扱うか - 論理・論理的思考力および周辺概念の再構築を通して - 、初等カリキュラム研究、査読無、第2号、2013、pp.3-11、

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00035901>

青山 之典、論理的認識力 日常の論理の偏向に対応する認識能力の構造、比治山大学現代文化学部紀要、査読無、第20号、2013、pp.135-143、

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/metadata/12134>

青山 之典、説明的文章の授業における「論理的認識力」育成の研究 「論理」と「意味内容」との相互補完的な実践を通して、広島大学大学院教育学研究科紀要、査読有、第一部第63号、2014、pp.67-75、

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00036619>

青山 之典、間テキスト性に着目して、表現主体の背景を想定することの意義 説明的文章の読みの指導に焦点をあてて、比治山大学現代文化学部紀要、査読無、第21号、2014、pp.131-142

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/metadata/12241>

青山 之典、説明的文章の授業における「論理的認識力」設定の意義 論理的で豊かな意味内容の創造と検討を実現するために、国語教育思想研究、査読無、第8号、2014、pp.65-74

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00035874>

青山 之典、読解カリキュラム開発に関する調査研究 トロント大学附属学校

に焦点をあてて、比治山大学・比治山
大学短期大学部教職課程研究、査読無、
第1号、2014、pp.143-155
[http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp
/hijiyama-u/metadata/12231](http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/metadata/12231)

〔学会発表〕(計4件)

青山 之典、説明的文章読解カリキュラ
ムにおけるStrandの構成に関する一考察
Strand相互の関係性に着目して、全
国大学国語教育学会第124回弘前大会、2
013年5月19日、弘前大学

青山 之典、論理的認識力 「論理的認
識力」を概念規定する必要性、全国大学
国語教育学会第125回広島大会、2013年10
月27日、広島大学

青山 之典、説明的文章の授業における「論
理的認識力」設定の意義 論理的で豊かな意
味内容の創造と検討を実現するために、全
国大学国語教育学会第126回名古屋大会
2014年5月18日、愛知県産業労働センター
(ウインクあいち)

青山 之典、間テキスト性に着目して、表現
主体の背景を想定することの意義、2014年10
月、全国大学国語教育学会第127回筑波大
会、2014年11月8日、筑波大学

〔図書〕(計1件)

青山 之典、広島大学大学院教育学研究
科(学位論文)、論理的認識力を高める
ための説明的文章の読みに関する小学
校国語科スパイラルカリキュラムの開
発、2015、224

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青山 之典 (AOYAMA, Yukinori)
比治山大学・現代文化学部・准教授
研究者番号：00707945